

令和4年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和5年2月15日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
成と学力の向上を図る。 （1）自ら学び自ら考える力の育成	①基礎的な力の定着	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お話タイムの積み重ねにより、伝える力が伸びた。</li> <li>・総合的な学習では、体験の場を多く取り入れることで、問題解決への意欲が高まり、自ら課題を解決しようと動くことができた。</li> <li>・タブレットを活用した授業を行い、ICTを使って調べ方やまとめ方にも工夫が見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本に親しむことは、読み取る力、理解力、語彙を増やす「など、さまざまな場面で生かせる。</li> <li>・多くの体験の場を設け、地域と連携していると感じる。</li> <li>・タブレット活用が進んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お話タイムを継続し、伝える力をいっそう伸ばす。</li> <li>★問題解決学習に取り組む、体験をもとに自主的に追究する力を育む。</li> <li>★読書量を増やし、図書資料活用場面を積極的に取り入れる。</li> </ul>
	②自ら学び、自ら考える力の育成	A					
ちの育成に努める。 （2）心豊かな思いやりのある子どもたち	①基本的な生活習慣の定着	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶運動や「挨拶マスター」で、校内で挨拶をする子が増えた。</li> <li>・生活アンケートをもとに、不安や悩みを解決するために、組織的で、丁寧な対応をすることができた。</li> <li>・一人一人に役割をもたせ、達成感や自己有用感を高めた。</li> <li>・むくろじ活動は、児童会を中心にキャンペーン活動を展開し、工夫した内容で行うことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人を認め、個性を伸ばす。子どもたちが自信をもってやり遂げることができるようにかかわってほしい。</li> <li>・むくろじ活動は、展開・工夫が必要になってきている。</li> <li>・挨拶は、学校外でもできるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事・係・当番・むくろじ活動など、一人一人の活躍の場と、協力して成し遂げる場を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める。</li> <li>★挨拶運動を校区・家庭にも広げ、地域と連携しながら進める。</li> <li>★運営委員会を中心に、全校にむくろじ活動の意義を伝えたり、キャンペーンを行ったりして、盛り上げる方策を講じる。</li> </ul>
	②個人の尊重	A					
	③他人のためをすすんで行う活動の推進	B					
くりを推進する。 （3）開かれた学校づくり	①地域連携組織の起ち上げ	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携を密にし、各運営組織を立ち上げ、準備を進めることができた。</li> <li>・HPの更新やメールの添付文書利用で、情報発信力を高めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPは、磯辺小の様子や活動を知ることができてよい。</li> <li>・創立150周年記念行事を楽しみにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★創立150周年を地域連携のよい機会ととらえ、総合「いそべ学習」や交通安全などで連携を深める。</li> <li>・HPやメール配信など、タイムリーな情報発信に努める。</li> </ul>
上に努める。 （4）教職員の和と信頼を大切に	①力量向上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業案検討・模擬授業を多数行い、授業力を高め合った。</li> <li>・新たな郷土学習材を開拓し、教育課程に位置づけることができた。</li> <li>・各教科でタブレットを活用した授業に取り組み、オンライン授業も整備が進んだ。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力や技術面だけでなく、人としての魅力的な人間力を高めてほしい。</li> <li>・多くの授業研究が行われており、先生方の意欲が見受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★積極的に授業研究を行い、組織的にかかわることで、授業力と授業の質を高める。人間の幅を広げるような研修を取り入れる。</li> <li>・発達段階に応じ、ICT活用とプログラミングのカリキュラムを整える。</li> </ul>
を推進する。 （5）働き方改革	①多忙化解消	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の在校時間調査を行うことで、職員の自己勤務管理の意識が高まった。多忙化解消のためには、業務の精選と効率化が必要である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化は必要である。</li> <li>・異業種の業務効率化を見学・研究し、学ぶのもよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★授業時間数を確保したうえで、職員会議がある日を全校5時間授業とし、会議の時間を設定する。</li> <li>・会議の持ち方を検討、工夫する。</li> </ul>

【自己評価】 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない

【総合評価】 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価

【関係者評価】 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない